かき	甘がき	13℃以上	19℃以上	－13℃以上	800時間以上		枝折れを防ぐため、新しょう伸長期において強風の発生が少ないこと。 新しょうの枯死を防ぐため、発芽・展葉期において降霜が少ないこと。
	渋がき	10℃以上	16℃以上	－15℃以上			枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね２m以下であること。 枝折れを防ぐため、新しょう伸長期において強風の発生が少ないこと。 新しょうの枯死を防ぐため、発芽・展葉期において降霜が少ないこと。
くり		７℃以上	15℃以上	－15℃以上			新しょうの枯死を防ぐため、展葉期において降霜が少ないこと。
うめ		７℃以上	15℃以上	－15℃以上			枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね２m以下であること。 幼果は凍害を受けやすいので、幼果期に降霜が少ないこと。
すもも		７℃以上	15℃以上	－18℃以上	1,000時間以上（台湾系品種を除く。）		枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね２m以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。
キウイフルーツ		12℃以上	19℃以上	－７℃以上			新しょうの枯死を防ぐため、発芽・展葉期において降霜が少ないこと。 枝折れを防ぐため、新しょう伸長期において強風の発生が少ないこと。 病害を防ぐため、強風の発生が少ないこと。
パインアップル		20℃以上		７℃以上			

㈱１．表中に品種の記載がある場合にあっては当該品種、それ以外にあっては一般に普及している品種及び栽培方法によるものとする。
２．最低極温とは、当該果樹の植栽地における１年を通して最も低い気温である。
３．かんきつ類の果樹については、冬期の最低極温を下回る日が10年に１回又は２回程度発生しても差し支えないものとする。
４．低温要求時間とは、当該地域の気温が7.2℃以下になる期間の延べ時間である。
５．上記の基準については、最近20年間の気象観測記録により評価する。

第４　近代的な果樹園経営の基本的指標

１　目標とすべき10ａ当たりの生産量及び労働時間

生産性の高い果樹園経営を実現することを旨として、単収及び労働時間に関する指標を果樹の種類ごとに設定する。

２　果樹園経営の指標

生産性の高い果樹農業の展開を図るため、経営体の具体的な姿として、代表的な経営類型ごとに農業経営モデルを示す。

１　目標とすべき10ａ当たりの生産量及び労働時間

果樹の種類＼区分		10ａ当たり生産量	10ａ当たり労働時間	摘要
		kg	時間	
かん	うんしゅうみかん	5,500	586	加温施設栽培
		3,200	127	わい性台木（ヒリュウ台）、主幹樹形栽培、草生栽培
		4,000	117	わい性台木（ヒリュウ台）、草生栽培、かん水
きつ類の果樹		3,200	141	わい性台木（ヒリュウ台）、草生栽培
		3,200	148	マルチドリップかんがい方式
	なつみかん	4,500	129	草生栽培
	はっさく	3,600	127	草生栽培
	いよかん	2,700	115	草生栽培
	しらぬひ	3,000	150	草生栽培、かん水
		3,000	160	雨よけ施設栽培
	レモン	3,500	164	草生栽培、かん水
りんご		3,000	209	普通栽培
		4,000	140	新わい化栽培（高密植栽培）
		4,000	126	加工